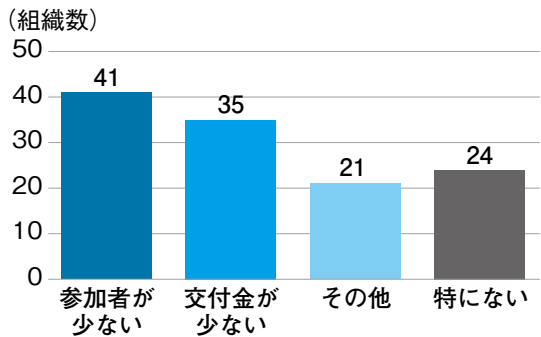


～多面的機能支払交付金活用組織の紹介～ (問合せ) 農林水産課 ☎23-1127

- 「多面的機能支払交付金事業」の概要**
- 交付対象の活動
 - ① 農地草刈り・水路泥上げ等の農地維持活動
 - ② 施設の修繕等の資源向上活動
 - 交付金活用組織数
121組織(170集落)
 - 農地保全面積
29.7km²(市全体農地面積の約6割)
 - 交付金額
2億2400万円(2021年度)
 - 交付金負担割合
国50%、県25%、市25%(交付年数5年)

交付金事業活用組織アンケート結果
【質問】活動に関しての悩みは？



「参加者が少ない」が最も多く、特に活動への参加者集めに苦労されていることがわかりました。なお「その他」は「活動項目が多い」「メニューの制約が多い」などの回答でした。

「草刈り隊員」による草刈り

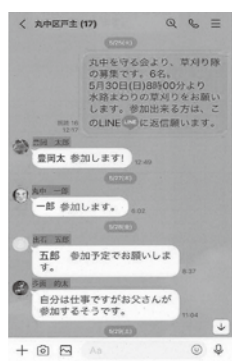


丸中を守る会(出石町丸中)

取組年数：8年目
認定農用地面積：田1,190a、畑3a
組織構成人数：33人

LINEを利用し会員に「草刈り隊員」の呼びかけ

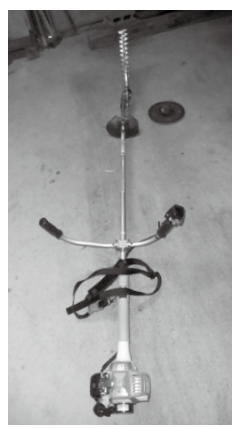
出石町丸中は、周辺地域の中では戸数が最少の集落ですが、管理する農地は約12haと耕作面積は大きいものとなっています。作業負担を軽減するために、複数作業を1日にするのではなく、例えば、泥上げ作業であれば前日までに草刈りを済ませておくようにしています。その際、LINEグループで会員に「草刈り隊員」を呼び掛け、参加者の確保を行っています。(右画面)



「小さい集落ですが、チームワークが自慢です」と代表の太田義晴さんと会の皆さん

交付金を活用して刈払機8台購入

丸中を守る会では、多面的機能支払交付金事業で刈払機を購入しました。現在8台を配備し、うち4台はバリカン仕様となっています。バリカンを使うことで、草刈りのネックでもある法面や側溝壁の作業の負担軽減にも繋げるよう工夫されています。(右写真)



※掲載している情報は編集時点(1月14日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

地域で農地を守っています

耕作放棄地は農地の荒廃だけでなく、有害鳥獣の出没や災害発生につながる

農地は米や野菜などの食糧生産の場として、私たちの命を支えています。近年は農薬を使わず、またはその使用を減らして、さまざまな生き物の命も育む農業が普及してきました。環境面にも配慮し、おいしさはもちろんですが安心安全も追及されています。この大切な農地が、農家の減少、農業者の高齢化により耕作放棄地となるケースが増えています。耕作放棄地は、単に農地が荒廃するだけでなく、シカやイノシシなどの有害鳥獣の出没の原因にもなります。また、農地の維持管理不足が災害を招くなど、農村集落全体に悪影響を及ぼすことにもなります。

集落の農地保全活動を支える「多面的機能支払交付金事業」

農地を守ることは、私たち市民の命を守ること。決しておろそかにはできません。市内では、集落を挙げて日々農地を守る活動を展開しています。この活動を支える仕組みが、国、県、市が協力して財政面の支援を行う「多面的機能支払交付金事業」です。現在、この交付金を活用している組織は121組織(170集落)あり、それにより保全している農地の総面積は29.7km²に上ります。これは市全体の農地面積49.2km²の約6割にあたります。

この交付金を活用している組織の中で、特徴的な活動をされている2つの組織を紹介します。

森津農地・水・環境保全協議会(森津・滝)

取組年数：8年目

認定農用地面積：田3,032a、畑88a

組織構成人数：59人

自然豊かな農地を後世まで

森津農地・水・環境保全協議会では、多面的機能支払交付金事業を活用し、先人が残した自然豊かな地域を後世まで残していけるよう日々活動しています。草刈り作業以外にも、農業に関する専門家や有識者を招いての室内研修会を開催しています。少しでも農業に興味を持ってもらうために、地区内の非農家の方も誘って活動の幅を広げています。



「集落の将来を思い、頑張りたい」と語る代表の成田市雄さん。「森津こうのとりファーム」の代表も務める

維持する農業からもうける農業へ

協議会代表の成田市雄さんは、農地を維持するだけでなく、先進的な農業を促進していくため、有志による営農団体である「森津こうのとりファーム」を設立しています。ここでは、無農薬・減肥料を掲げて地域農業の有機化を進め、安心安全の農作物が生産されています。経費を抑えながら取り組むことでもうける農業を実現。「農地を守る」ことから「もうける農業(攻め)」へと転換されています。

※掲載している情報は編集時点(1月14日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。
広報とよおか 2022年2月号



「先祖からの土地を次代につなぎたいという思いで頑張っています」と協議会の皆さん



▲森津地区の皆さん
▼滝地区の皆さん



「森津こうのとりファーム」では、安心安全なお米を届けたいと、地域の子どもたちとの交流を続けています